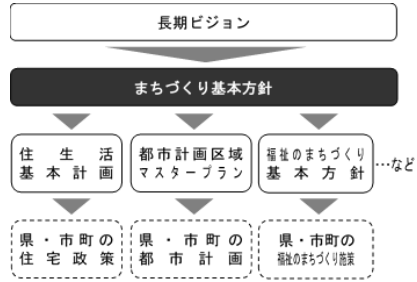


1 基本的事項

(1) 方針の位置づけ

- まちづくり基本条例第10条に基づく、まちづくり施策を総合的に講ずるための基本方針
- 長期ビジョンのまちづくり分野における基本的な方針



(2) 展望年次

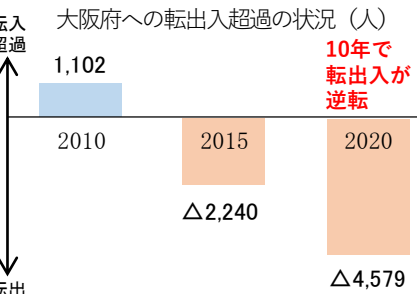
- 2050年を展望し、めざすまちの将来像を提示
- 今後概ね10年間の取組の方向性を明確化

※「まちづくり」について

本基本方針では、「まちづくり」の対象を都市と集落及びそれらの周辺部における「日常生活に関わる空間づくり（ハード）とそれに関係する人づくりや仕組みづくり（ソフト）」として定義

2 まちづくりを取り巻く現状と課題（主なもの）

①大阪府への人口流出が加速



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

②コロナ禍でのローカル志向の高まり

2020年と2019年の同時期における移住相談件数の比較（兵庫県）

団体名	2019	2020	前年比
たつの市	7件	14件	200%
豊岡市	53件	225件	425%
丹波篠山市	122件	241件	198%
淡路市	298件	656件	220%

出典：兵庫県資料

③人口の半数が災害リスクエリアに居住

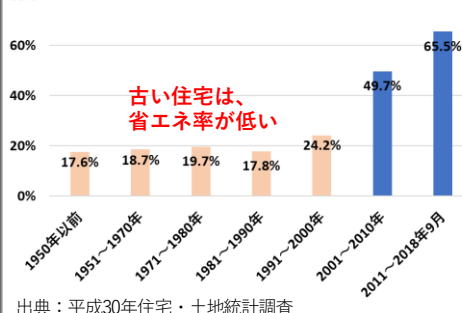
災害リスクエリア内の人口（総人口に対する割合）

年次	人口（割合）
2015	264万人（47.4%）
2050（推計）	209万人（48.3%）

出典：国土交通省「都道府県別の災害リスクエリアに居住する人口について」

④既存住宅の省エネ化が低調

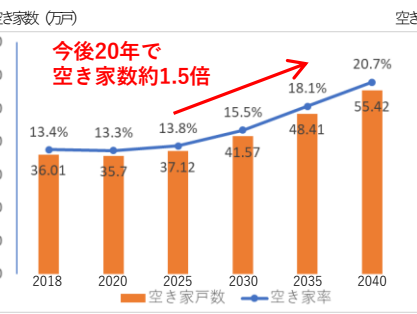
住宅（持ち家）の建築時期別省エネ対策住宅率



出典：平成30年住宅・土地統計調査

⑤空き家が今後さらに増加

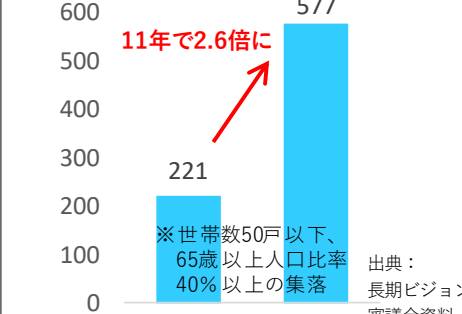
空き家戸数と空き家率の推計



出典：兵庫県将来構想研究会資料をもとに作成

⑥小規模集落は約10年間で急増

小規模集落※の推移



出典：長期ビジョン審議会資料

3 基本方針の考え方

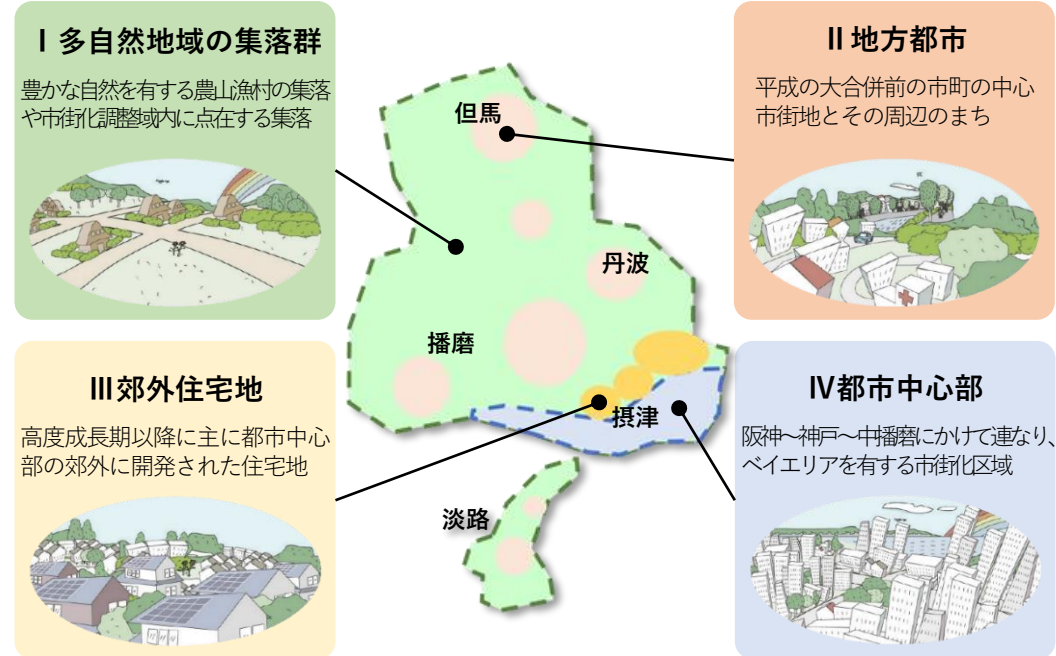
(1) 基本コンセプト

すべての人が自分らしく輝ける「住みたい」「訪れたい」ひょうご

誰も取り残されることなく安心して、育ち、学び、働き、遊び、しあわせに暮らすことができる人間中心のまちづくりを地域主導で進める。大都市から地方都市、多自然地域といった多様な地域を持つ兵庫の強みを最大限に活かし、住みたい、移住したい、訪れたい、一人ひとりが生き生きと躍動する兵庫をめざす。

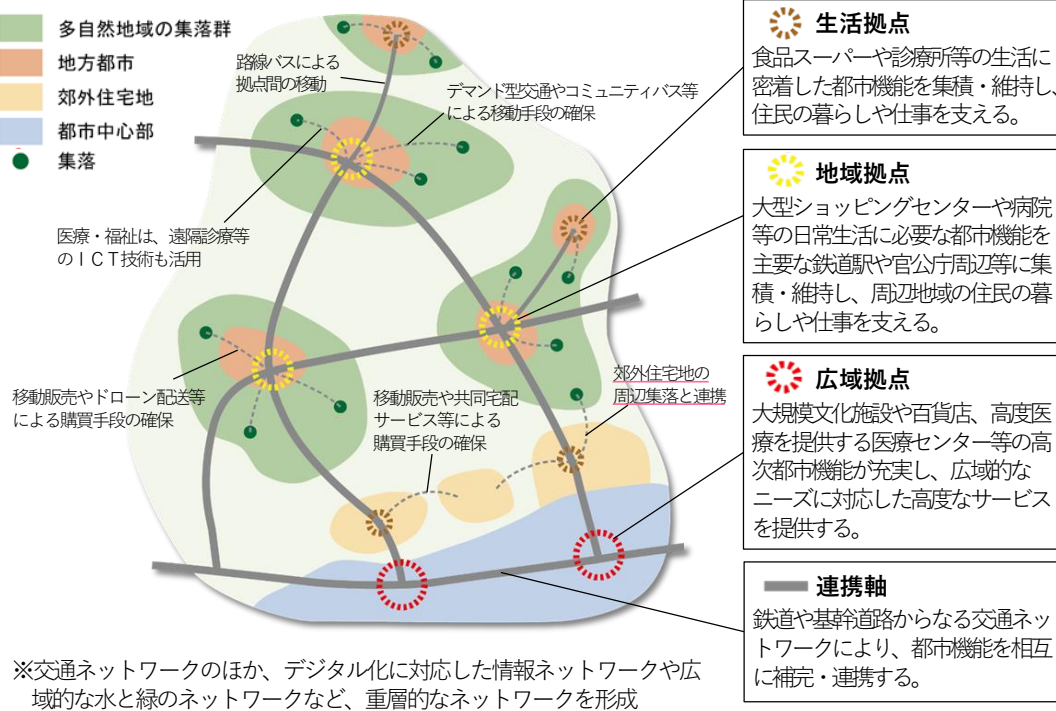
(2) 地域の設定

まちの成り立ち等の特徴を捉えて、4つの地域に分類



(4) 各地域の関係性（持続可能な都市構造の姿）

誰もが安心して暮らし続けられるために、各地域が都市機能を相互に補完・連携し、持続可能でコンパクトな都市構造を構築する。



※交通ネットワークのほか、デジタル化に対応した情報ネットワークや広域的な水と緑のネットワークなど、重層的なネットワークを形成

(3) テーマの設定

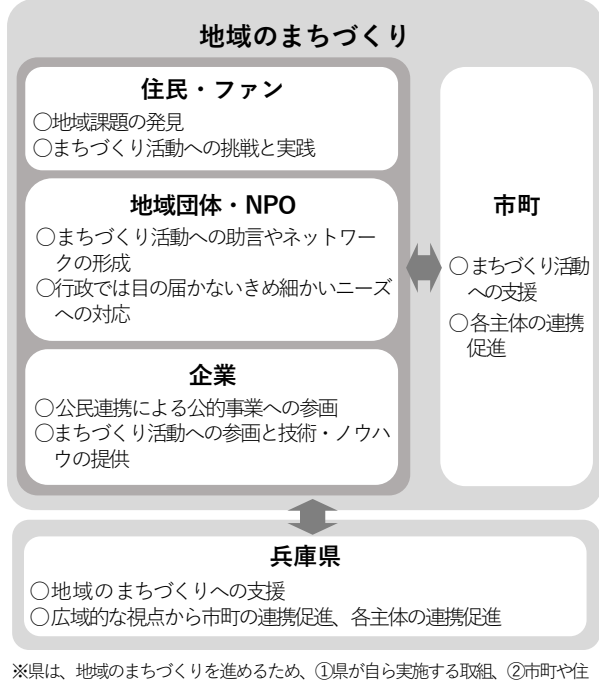
まちづくり基本条例の理念と長期ビジョンの「5つのめざす社会」を踏まえ、4つのテーマを設定

- ①安全・安心**（Ⅲ 誰も取り残されない社会）
 - 防災・減災、都市の強靱化
 - ユニバーサルなまちづくり、地域の見守り など
- ②持続・循環**（Ⅴ 地球の持続を先導する社会）
 - カーボンニュートラル、エネルギーの地産地消
 - 豊かな自然 など
- ③魅力・挑戦**（Ⅰ 自分らしく生きられる社会、Ⅱ 新しいことに挑戦できる社会）
 - 個性を磨く地域づくり
 - スマートシティ、スタートアップ など
- ④自立・連携**（Ⅳ 自立した経済が息づく社会）
 - 住民主体のコミュニティビジネス
 - 地域内外との交流と連携 など

※括弧内は、長期ビジョンにおけるめざすべき社会の姿Ⅰ～Ⅴとの対応を記載

(5) 各主体の役割

住民・ファン、地域団体・NPO、企業、市町、県が相互の理解、信頼及び協働のもと、「めざす将来像」の実現のため、まちづくりに取り組む。



※県は、地域のまちづくりを進めるため、①県が自ら実施する取組、②市町や住民等に対する支援、③市町や住民等に対する誘導・意識醸成を行う。

多様なつながりがつくる新たな「ふるさと」

豊かな自然を有する多自然地域が来訪者や移住者を誘引し、地域住民との多様なつながりが生まれるとともに、革新技術を活用した新しい地域づくりが行われている。

<① 安全・安心>

新たな技術と人の絆で、どこに住んでいても安全で安心な暮らしが続けられている

地域で目指す安全

- 住宅の耐震化が進み、災害のおそれのある場所や災害時の避難方法をみんなが共有し、いざという時の対策や助け合う準備が整っている。

便利な買い物・通院

- コミュニティバスや自主運行バスで、生活の拠点となっている地方都市へ訪れ、食品スーパーでの買い物や診療所への通院をするなど、便利な生活を送っている。
- インターネットで注文しドローン配送を利用する人が増え、地方都市からの移動販売は品揃えが豊富で、買い物を楽しんでいる。

身近な安心に囲まれた暮らし

- 顔なじみによる見守りに加え、AIや介護ロボットなどのICTによる遠隔診療や介護サービスにより、誰もが安心して暮らしている。

<② 持続・循環>

豊かな自然が県民の憩いの場となり、食やエネルギーを育てている

豊富な創エネ資源

- 太陽光発電やバイオマス発電等の施設導入が進み、エネルギーの自立供給が可能な地域が広がっている。
- 地域内で発電、消費されるエネルギーシステムが確立し、地域内で所得や雇用を生み出す循環経済へ移行している。

食の先進地域

- 多彩な地域ブランド食材が生産され、農家レストランや近隣の都市で開催されるファーマーズマーケットで販売されるなど、地産地消のサイクルが確立している。

恵まれた自然環境

- 豊かな森や海、水辺、里山が保全され、多様な生き物が生息する自然に触れ、憩い、学ぶことができる場を求めて、地域内外からたくさんの方が訪れている。

<③ 魅力・挑戦>

地域資源を活かした新たな働き方や暮らし方のフロンティアとなっている

新しいビジネスの舞台

- 古民家を改修したアーティストの活動拠点には新進気鋭の若者が集い、全国から人が訪れるスポットになっている。
- 廃校や公民館などの空き公共施設がスタートアップ企業のオフィスとしてリノベーションされ、起業に挑戦できる環境が整っている。

働き方のフロンティア

- スキー場などのリゾート地ではワーケーションが活発に行われ、新たなサービスが生まれている。
- 空き家を借りて移り住む人が増え、農業をしながら酒造りを手がける半農半蔵人（半農半X）など、自分のライフスタイルに合わせた多種多様な働き方が定着している。

誇りと愛着のある暮らし

- 地域の歴史・文化・風土などに根ざした景観を守り育てる取組が広がり、住民の誇りや地域への愛着を育てている。

<④ 自立・連携>

地域住民が様々な人々と関わりを持ちながら地域経営を担っている

交流が生む元気な地域コミュニティ

- 移住者、二地域居住者、SNSを通じて獲得したファンなどが地域のコミュニティに参画し、新たなアイデアを持ち込み、活発なコミュニティ活動が広がっている。
- 集落を訪れる人との交流を通じて活動の輪がさらに広がり、地域の課題に取り組む担い手が各所で増えている。

引き継がれる伝統

- 地域住民と交流する人たちによって、地域を超えて村祭りなどの伝統行事が支えられ、子ども世代や移住者に継承されている。

自分たちでつくる地域

- 住民自らが生活に欠かせない店舗やガソリンスタンドなどを運営し、地域の暮らしを支え合っている。

集落特性に応じた防災・減災の推進

- 災害ハザードエリアにおける建築物の安全性の確保
- 地域の工務店等と連携した木造住宅の耐震化の推進
- 遠方の自治体との災害対応に関する連携促進
- 大規模災害に備えた地区ごとの防災計画の策定促進
- 災害時の避難計画と避難路の安全確保
- 要援護者の把握と支援体制の整備

ICT等を活用した暮らしの安心確保

- 小型電気自動車や自動運転車による集落内移動や地方都市へのアクセス確保
- 集会所や小学校等の多くの人が集まる公共施設のバリアフリー化の推進
- 移動販売やドローン配送等による日常生活用品の調達手段の確保
- 地域コミュニティやICTによる高齢者等の見守りや介護システムの導入促進

地域環境と調和した創エネ・省エネの推進

- 大規模遊休地等における地域環境と調和した創エネ施設の立地誘導
- 既存住宅の創エネ・省エネ改修の促進
- コミュニティバス等への電気自動車や燃料電池車の導入促進
- 食やエネルギーの地産地消による地域経済循環の推進

自然環境の保全と継承

- 森林や緑地等の自然環境の保全に配慮した開発行為の適正な誘導
- 里山の保全や野生動物との共生を通じた環境学習の充実
- 県産材や間伐材などの地域の企業による活用や地場産加工品としての活用促進
- カーボンオフセット・クレジットを通じた森づくり等の自然環境保全の意識醸成

地域資源を活用した観光・交流のまちづくり

- 市街地調整区域における柔軟な土地利用によるUターンや民間投資の促進
- 古民家やリゾート地の遊休施設等を活用したワーケーションの推進
- 空き家を活用した新たなビジネス拠点整備の促進
- 自然・田園景観などの地域資源の発掘・情報発信による魅力の向上
- 誰もが円滑に旅行できる宿泊施設のバリアフリー化の推進
- 田舎暮らしや農林漁業体験、楽農生活の推進とICTやSNS等を使った魅力発信

移住者や二地域居住者、関係人口などを含めた担い手育成

- 若者を地域に呼び込むサブスク型空き家活用や多自然居住、二地域居住等の多様な住まい方の推進
- 空き公共施設を活用した地域活動の拠点づくりの促進
- マルチワーカーの派遣支援による人手不足の解消
- クラウドファンディング等のICTを活用したまちづくりへの新たな参画・協働の推進
- 農村文化を伝える年中行事や祭りの継承
- 営農体験等の都市農村交流の促進

自立した集落づくりと都市との連携構築

- 地域課題の解決に向けた自主的なまちづくり活動の促進
- NPO法人や大学とも連携した集落の維持と自立への支援
- 近隣の集落との生活機能の共有や地方都市との都市機能の連携強化

個性きわだち誇りある「地域の核」

歴史的なまちなみ等の地域資源や地域文化のさらなる活用がまちの個性を際立たせ、地域の誇りになるとともに、周辺地域の文化や経済の中心としての拠点性が高まり、多様な交流の結節点となっている。

<① 安全・安心>

日常生活に必要な都市機能が地域住民の暮らしを支え、災害への備えが整っている

地域で目指す安全

- ・災害リスクの少ない居住地を選ぶ人が増え、災害に備えて誰もがハザードマップや防災計画を共有している。
- ・災害時には、救援物資の集積や復旧活動の拠点として、多自然地域の集落を支える体制が整っている。

暮らしの核となるまち

- ・大型ショッピングセンターや病院、図書館など日常生活に必要な施設が充実し、多自然地域の集落を含めた住民の暮らしを支える地域拠点となっている。

地域をつなぐ移動手段

- ・鉄道や路線バスに加え、コミュニティバスやデマンド型交通を組み合わせるなど、便利で快適な移動手段が整っている。

大規模災害への備えの充実による都市の強靱化

- ・災害ハザードエリアでの住宅等の規制・誘導
- ・地域の工務店等と連携した住宅や施設の耐震化の推進
- ・大規模災害に備えた地区ごとの防災計画の策定促進
- ・災害時の避難計画と避難路の安全確保
- ・要援護者の把握と支援体制の整備

周辺地域に安心を届ける地域拠点の形成

- ・コンパクトシティの形成による地域の日常生活を支える都市機能の確保
- ・子育てしやすい居住環境の実現のための三世帯同居・隣居・近居世帯の推進
- ・高齢者等が利用しやすい駅舎のバリアフリー化やノンステップバス等の導入の促進
- ・障害者等の意見を反映した駅前や商店街等における施設のバリアフリー化の推進
- ・MaaSの導入による利用しやすい公共交通の整備と地域のコミュニティ交通の維持
- ・ICTの活用や地域コミュニティと連携した防犯・交通安全体制の整備

<② 持続・循環>

多自然地域の集落との相互連携により、食やエネルギーの地産地消が進み、脱炭素化した地域構造や暮らし方が確立している

エネルギーの地産地消

- ・低炭素を志向するライフスタイルが定着し、建物の瓦や木材は地場産材を使い、断熱性能を高めた建築物が普及している。
- ・創エネ・省エネ設備が備わり、電力を自給できる建築物が増え、エネルギーの地産地消が実現している。

緑豊かなまち

- ・公園等の公共施設や建築物の敷地などまちなみと至るところで緑化が進み、今ある緑も大切に維持されている。

脱炭素社会を実現する住宅・交通・暮らし方

- ・公共建築物等における県産木材を活用した木造・木質化の推進
- ・カーボンニュートラルの取組を先導する建築物の創エネ・省エネ改修の推進
- ・ごみ処理・下水・工場廃熱等の都市廃熱の積極的な活用の促進
- ・節電や省エネに配慮した住まい方の普及・啓発
- ・食やエネルギーの地産地消による地域経済循環の推進

緑豊かなまちなみの形成

- ・グリーンインフラに寄与する公園の整備、建築物の敷地、空き地等の緑化の促進
- ・緑地等の自然環境の保全に配慮した開発行為の適正な誘導

<③ 魅力・挑戦>

魅力的で個性豊かなまちに多くの人が集まり、地場産業と地域資源が融合した起業による多様な働く場が生まれている

物語が織りなす個性

- ・高いデザイン性や物語性を持った地域の歴史・文化や地場産業が他のまちなみにない個性を発揮している。

訪れたいまち

- ・オープンカフェがある駅前や広い歩道では人々がくつろぎ、居心地が良く歩きたくなるまちなかになっている。
- ・食や文化を実体験できるフィールドパビリオンや工場の魅力に迫るファクトリーツーリズムを通して、多くのファンを獲得している。

地域資源の新たな展開

- ・空き家を活用して整備されたコワーキングスペースでは多様なアイデアが生まれ、地場産業や地域資源と掛け合わせり新たな価値を持った産業を生み出している。

歴史・文化等の地域資源を活かした個性あるまちづくり

- ・歴史的まちなみや地場産業などの地域資源を活かしたまちづくりの推進
- ・沿道景観等の広域景観形成の推進
- ・ICTやSNS等を活用した歴史的なまちなみ景観の魅力の発信

地域に活力をもたらすしごとの創出

- ・古民家を活用したコワーキングやワーケーション等の推進
- ・空き家等を活用した住民やNPO等によるコミュニティビジネスの拠点整備の促進

人中心の魅力あるまちなかの形成

- ・道路等の公共空間の利活用による居心地の良い歩きたくなるまちなかの創出
- ・誰もが円滑に旅行できるための公共交通、宿泊施設のバリアフリー化の推進
- ・駅前や商店街を中心としたまちなかにぎわいづくりや地域コミュニティの担い手づくりの促進

<④ 自立・連携>

日常生活を支える拠点性が高まり、人々が行き交う交流の結節点となっている

人を呼び込む多拠点生活

- ・社会のデジタル化により大都市勤務の必要性から解放され、二地域居住や、定住を前提としない身軽な賃貸住宅サービスを利用する人が増えている。

まち・人をつなぐ拠点

- ・地域拠点では、官公庁や金融機関が揃い、大型ショッピングセンターは、買い物する人ににぎわっている。
- ・百貨店や高度医療を提供する医療センターのある広域拠点とを結ぶ、道路や鉄道等の交通基盤が体系的に整備されている。
- ・培われてきた伝統的な祭りや行事は、地域を超えて担い手が集まり、新たな価値と融合しながら継承されている。

多様な暮らし方・働き方ができる環境づくり

- ・若者を地域に呼び込むサブスク型空き家活用や二地域居住等の多様な住まい方の推進
- ・自治会、NPO団体、事業者等で構成される協議会等による自主的なまちづくり活動の促進
- ・クラウドファンディング等のICTを活用したまちづくりへの新たな参画・協働の促進

都市と地域を結びつける拠点の形成

- ・コンパクトシティの形成による地域の日常生活を支える都市機能の確保
- ・MaaSの導入による利用しやすい公共交通の整備と地域のコミュニティ交通の維持

めざす将来像

主な取組の方向性

多様な主体が住みごたえを高めあう「まち」

NPO団体等の多様な主体がストックを活用してまちのリノベーションや地域課題解決型のビジネスを展開し、専用住宅地から多様な機能を備えた「まち」では、あらゆる世代が暮らしを満喫している。

<① 安全・安心>

都市基盤が維持管理され、あらゆる世代がまちづくりに参画し、良好な住環境の中で安心して暮らしている

災害に強い住まい

- 大規模地震の被害を最小限に抑えるよう、建築物や宅地の耐震性が確保されている。

充実する利便性

- 住宅専用の用途地域が見直され、徒歩圏内に空き家等を活用した医療や福祉、子育て支援施設等が立地し、誰もが安心して便利な暮らしを満喫している。

身近になる移動

- 近くの駅やバス停、商業施設へは自動運転車や低速の電動車（グリーンスローモビリティ）を使って、誰もが気軽に移動している。

<② 持続・循環>

ゆとりある環境や整った都市基盤を活かしたスマートコミュニティに進化している

脱炭素が進むまち

- ゼロエネルギー住宅や電気や燃料電池で走る団地内交通が普及するなど、生活の中に脱炭素の意識が根付いている。

自然と緑と共生する空間

- 住宅の庭や生垣など至るところに花や緑があふれ、道路や公園などの公共空間や空きスペースの樹木は、みんなが協働で管理している。

適疎がもたらす豊かな暮らし

- 空き地となった隣地を家庭菜園や趣味の芸術活動の場として活用し、充実した毎日を送っている。

<③ 魅力・挑戦>

まちのリノベーションや課題解決型ビジネスを通じて新たなまちの魅力を創出している

付加されるまちの機能

- エリアマネジメント組織がまちのリノベーションを展開し、空き家がカフェや高齢者の自立支援型デイサービスなどに活用されている。
- 週末には、空きスペースにキッチンカーが並び、ランチを買って楽しむなど、誰もが暮らしを満喫している。

ゆとりと潤いのあるまち

- ゆとりある美しい住環境や自然に近い緑豊かな自然環境が住民主体で維持管理されるとともに、その魅力が発信され、それらに関心のある若年世帯が移住している。

<④ 自立・連携>

多様な主体や多世代が活躍、連携しながら地域を運営している

バランスのとれた多世代居住

- 中古住宅への住替え、シェアハウスへの入居、テレワーク対応住宅への改修など、多様な住まい方が広がり、多世代がバランス良く暮らしている。

仕事とコミュニティの新たな関係

- テレワークが進展し、通勤からの解放され、自分時間の増加したことにより、地域活動に参加する人が増えている。
- ICTによる多世代が参画できる仕組みが普及し、住民主体の地域運営が行われている。

地域を支える活動

- 住民主体のエリアマネジメント組織が地域施設や子育て・高齢者支援サービスなどを管理運営している。
- SNS等を通じて共通の趣味で結ばれた人たちが趣味の延長から小さな起業に挑戦し活発に交流している。

住宅地の特性に応じた防災・減災の推進

- 災害ハザードエリアでの住宅等の規制・誘導
- リノベーションの機会を捉えた住宅や施設の耐震化の推進
- PFI等による公的住宅の建替・老朽化対策の推進

- 自主防災組織の強化
- 要援護者の把握と支援体制の整備

あらゆる世代の暮らしの安心確保

- 生活利便施設が立地可能となる用途地域や地区計画等の見直し
- 子育てしやすい居住環境の実現のための三世帯同居・隣居・近居の推進
- センター地区等の商業施設や公園、駅舎等、公共施設のバリアフリー化の推進
- 配食サービスや日常生活用品の宅配サービスの充実
- 団地内や団地間をつなぐコミュニティバス運行支援

脱炭素社会に適応した交通・住宅・暮らしの実現

- カーボンニュートラルの取組を先導する建築物の創エネ・省エネ改修の推進
- 住宅等における県産木材を活用した木造・木質化の推進
- 公共交通の活用促進や団地内交通への電気自動車・燃料電池車の導入促進

緑豊かな住環境の維持・形成

- 郊外住宅地の縁辺部等に残る自然環境の保全
- ゆとりある住環境創出のための空き地となった隣地の活用促進（ランドバンク）

空き地・空き家等を活用したまちの多様性の創出

- センター施設や空き家への介護、福祉、子育て支援施設等の新たな機能・サービスの導入促進
- テレワーク、コワーキングスペース等の導入による職住近接の推進
- 既存住宅の流通促進と空き家や空きスペース等の適正管理など空き家・空き地対策の推進
- 遊休不動産の活用により地域価値を向上させるリノベーションまちづくりの推進
- 住環境を保全創造するための新たな景観ルールの策定促進
- 団地の歴史や資産の発掘とICTやSNS等を使った魅力の発信

多世代が参画する自立したまちづくり

- 既存住宅の流通促進と世帯ニーズに応じた適切な住宅への住替え促進
- 公的住宅における学生シェアハウス等の導入の推進
- 若者からシニア世代まで様々なスキルを持つ、まちづくりの核となる人材の発掘・育成の推進
- 共通の趣味などのテーマ型コミュニティ等によるまちづくりへの新たな参画の促進

ニュータウン再生の成果の活用

- 公社等の公的セクターと連携した明舞団地におけるモデル施策の推進
- 明舞団地再生の成果を活用した他のニュータウン再生の促進

世界へ広がる交流「都市」

国内外に開かれた広域的な交流の拠点として、多様な人やモノ、サービス、情報が集積し、イノベーションを生み出すとともに、新たな時代の流れを柔軟に取り込み、常に発展し続けている。また、大規模災害や新たな感染症を見据えた強靱な都市に再構築されている。

<① 安全・安心>

大規模災害への備えがあり、交通や情報ネットワークの充実した強靱な都市となっている

災害に備えた都市

- 南海トラフ地震や風水害の被害予測や災害前と後にとるべき行動をみんなが共有している。
- 適切な都市機能の分散や密集市街地の改善、建物やインフラの耐震化が進み、防災先進地として強靱な都市になっている。

便利な交通システム

- 鉄道やバスで都市に訪れた人がBRTやシェアサイクル、パーソナルモビリティなど、目的に応じて、まちなかを便利に移動している。

大規模災害に備えた都市の強靱化

- 建築物の耐震化、耐水化など災害リスクを踏まえた防災まちづくりの推進
- 災害ハザードエリアでの住宅等の規制・誘導
- 建築物等の耐震化による大規模災害時の緊急物資の輸送・避難路の確保の推進
- BCPの策定、駅前のオープンスペースの確保等の帰宅困難者対策の推進
- 多自然地域の自治体と連携した災害対応の促進
- 大規模災害に備えた地区ごとの防災計画の策定促進
- 都市型水害に備えた貯留・浸透・避難対策等の推進
- 要援護者の把握と支援体制の整備の推進

ソフト・ハードにわたる総合的な安全・安心の構築

- 障害者等の意見を反映した駅前や商店街等における施設のバリアフリー化の推進
- 子育てしやすい居住環境の実現のための三世帯同居・隣居・近居世帯の推進
- リアルタイム交通情報の取得やシームレスな乗換がしやすくなるMaaSの導入による公共交通等の活用促進
- ICTを活用した防犯カメラの設置や地域連携による防犯・交通安全体制の整備の促進

<② 持続・循環>

脱炭素社会を先導する都市システムを備えた緑があふれ、ゆとりあるスマートシティとなっている

最適化されたエネルギーシステム

- 多くの建築物では太陽光発電パネルや蓄電システムが設置され、再生可能エネルギーが効率的に供給される分散型エネルギーシステムが構築されている。
- 一部の地域では、適切なマネジメントにより地域内のエネルギー需給が最適化されるスマートシティが形成されている。
- 究極のクリーンエネルギーである水素の利用が広がり、水素を基幹エネルギーの一つとする水素社会が実現している。

適密で過ごしやすい都市空間

- まちなかに配置された緑豊かなオープンスペースが、都市に潤いをもたらす、県民の憩いの場になっている。

スマートシティの形成

- カーボンニュートラルの取組を先導する建築物の創エネ・省エネ改修の推進
- 公共建築物等における県産木材を活用した木造・木質化の推進
- 建築物のエネルギーの効率的な利用を図るスマートグリッドの導入促進
- 燃料電池車の普及拡大のための水素ステーションの整備促進
- パークアンドライド等の交通需要マネジメントの推進

緑あふれる都市空間の構築

- 都市におけるオープンスペースの確保や緑化の推進と適正管理
- 都市に潤いをもたらす都市農地の保全・活用の促進

<③ 魅力・挑戦>

多様な産業・活動・人材が集積し、イノベーションを生み出し続けている

継承される都市文化

- 近代化遺産などの歴史資源や都市文化が、シティプロモーションにより魅力的に発信・継承され、国内外から多くの人々が訪れている。

歩いて楽しいまち

- デジタル社会の進展に伴い人口集中が緩和され、過密が解消されたまちなかに、オープンカフェやパークレットが設置され、居心地が良く歩いて楽しい空間が広がっている。

世界に誇るビジネスチャンス

- 県全体の活力を牽引する基幹産業から若くて勢いのあるスタートアップまで様々な分野の産業と働く場が整っている。
- 播磨灘・大阪湾ベイエリアでは、MICEやレジャーなど国内外の交流が活発で、新しいビジネスや高度な人材が続々と集まっている。

都市ブランドの構築

- 県立公園のリノベーションやパークPFI等の民間投資による公園の魅力向上
- 誰もが円滑に旅行できる公共交通、宿泊施設のバリアフリー化
- 道路等の公共空間の利活用による居心地の良い歩きたくなるまちなかの創出
- 近代化遺産や歴史的まちなみ、地場産業などの地域資源を活かしたシティプロモーションの推進
- 狭小敷地や接道等の制約がある市場性の低い空き地、空き家の流通・利活用促進

情報・人材の集積によるイノベーションの創出

- 都市計画の見直しや交通インフラの整備による播磨灘・大阪湾ベイエリアの活性化の推進
- 駅近などの空きスペースを活用したテレワーク、コワーキング等の導入促進
- スモールオフィス等の起業の場や交流機能を備えた知的交流・創造拠点の整備促進

活力あるまちなかの再生

- 駅前や商店街等の中心市街地の活性化やにぎわいを生み出す市街地整備の促進
- マンションの適正管理や円滑な再生の促進
- 商店街活性化のための空き店舗を活用したにぎわい・交流拠点の導入促進

<④ 自立・連携>

国内外に開かれた広域連携のハブエリアとして多様な主体の連携による地域経営を通じて都市文化を発信している

国際交流都市の確立

- 世界や国内各地とつながるハード・ソフトのインフラが充実するとともに、人・モノ・サービス・情報が集積するハブとしての機能を発揮し、交流が拡大している。

ともに創るまち

- 様々なライフスタイルや場所と時間にとられないワークスタイルを持つ人々が住み、働き、人と人とのリアルな交流を大切にしながら、SNS等の情報ネットワークを通じてまちづくりに関与している。

自律的なマネジメント

- まちを訪れる人のニーズに対応した公共空間の活用やイベントの開催など、地域主導の自律的な都市経営が展開されている。

多様な住まい方の創出と多様な人材の活用

- 若者を地域に呼び込むサブスク型空き家活用や二地域居住等の多様な住まい方の推進
- エリアマネジメント組織等による自主的なまちづくり活動の促進
- テレワーク等により自分時間が増加した住民の地域づくりへの参加促進
- ファーマーズマーケットの開催等の都市農村交流の促進
- 伝統的な祭りの継承とイベントの開催

持続可能な都市の再構築

- 医療・産業の最先端施設等の高度な都市機能を有する広域拠点の整備と交通ネットワーク形成の促進

世界にはばたく交流都市づくり

- ひょうごのまちづくりを支える人材育成の促進
- MICEの開催や世界をリードする先端技術や先端科学を支える基盤整備の促進